

長崎まちづくりのランドデザイン

第4回検討委員会

【議案】

長崎まちづくりのランドデザイン2050（素案）

令和7年7月16日
長崎市まちづくり部



- 1 第3回検討委員会の振り返り
- 2 策定スケジュールの見直し
- 3 長崎まちづくりのランドデザイン2050（素案）
- 4 今後のスケジュール

(1) グランドデザインの目的

背景

- 人口減少対策は喫緊の課題であり、経済再生・少子化対策・新市役所創造プロジェクトに取り組んでいるなか、まちづくりの分野からも、経済再生と定住促進を後押しする取り組みが必要である。
- そのうえでは、100年に一度のまちづくりにより生まれた新たなまちの基盤のポテンシャルを最大限に活用し、新たな魅力とこれまで培ってきた魅力の融合による新たな価値の創出が重要。
- 併せて、これらの取り組みを強力に推進するためには、官民がベクトルを合わせて取り組みを進めることが重要。

長崎まちづくりのグランドデザイン

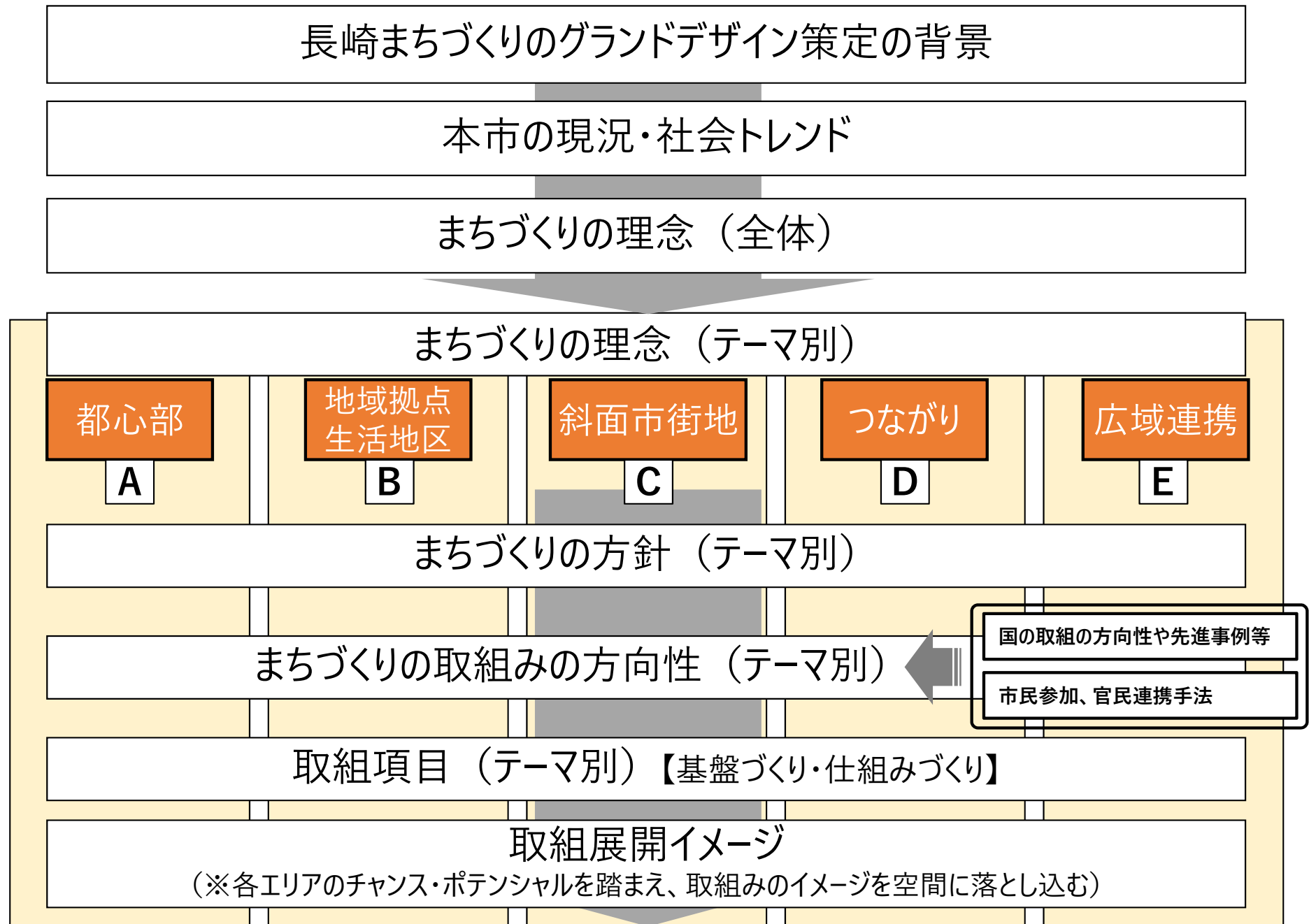
位置づけ

経済再生・定住促進をまちづくり分野（まちの基盤とそれを活かす仕組み）から後押しするため、経済再生・定住促進に特化した長期的なまちづくりの方向性を示し、多様な関係者が取り組みのベクトルを合わせるための羅針盤となるもの

役割

- 経済再生・定住促進につながるまちづくりの方向性を、体系的に整理し、かつ、空間に落とし込むなど、わかりやすい形で多様な関係者と共有する
- 基盤・仕組みづくりや民間投資の喚起など、経済再生・定住促進を官民が連携しながら強力に推進する

(2) グランドデザインの目次構成



(3) グランドデザインの全体イメージ

まちづくりのグランドデザイン

※社会情勢の変化等を踏まえながら、
おおよそ中間年(2040年)を目途に見直し（予定）

方針 (見直し時期まで不変)			行動指針 (外部環境の変化に応じて、適宜見直し)		実行フェーズ
まちづくりの 理念	まちづくりの 方針	取組みの 方向性	取組項目		取組展開 イメージ (案)
			基盤	仕組み	
A	I	① ② ③	・ ・ ・		<p>ポテンシャル図 (将来の長崎市の変化やポテンシャルを空間に示す)</p> <p>↓</p> <p>展開イメージ図 (ポテンシャル図を踏まえ、各テーマ、エリアにおいて想定される取組みの展開イメージを空間に示す)</p>
	II	① ② ③	・ ・ ・		
	III	① ② ③	・ ・ ・		

様々な主体がまちづくりのベクトルを合わせながら取組みを推進していく。

1 第3回検討委員会の振り返り

(4) まちづくりの理念（全体）（案）

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方（ライフスタイル・ビジネススタイル）を選択でき、だれもが安全・安心に暮らせる長崎づくり

現状整理・市民が望むまちの姿から見る長崎のポテンシャル

- ① まちなか・海・山・斜面地暮らしなど、思い思いに多様なライフスタイル・ビジネススタイルを選択できる
- ② 歴史・文化や国際性、スポーツ、豊かな自然環境など、長崎ならではの多様な魅力があり、国内外から多くの人々が訪れ、交流や活動ができる
- ③ 天然のコンパクトシティとして、多様な魅力や都市機能がコンパクトに集まり、各拠点がネットワークで結ばれ、だれもがどこに住んでも生活サービスを享受できる
- ④ だれもが安全・安心・快適な暮らしができる



1 第3回検討委員会の振り返り

7

(5) まちづくりの理念・方針・取組みの方向性【テーマ別】

A 都心部

理念（案）：人、企業、投資を呼び込む求心力の核となるエリアづくり

方針（案）	取組みの方向性（たたき台）
人、企業、投資を呼び込む価値の創造	① エリア価値創造拠点の確保 ② 公共空間等を活用したエリア価値創造の取組推進
人中心の歩いて楽しい都市空間	① 人中心の安全・安心・快適な道路空間の創出 ② 回遊の支援 ③ 回遊動線と連携した沿道空間の魅力向上
交流の創出や多様な活動の実現	① 交流創出や多様な活動を実現する場の確保 ② 民有地のオープンスペース等と連携した賑わい向上

B 地域拠点・生活地区

理念（案）：豊かな自然などの魅力を感じ、地域ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

方針（案）	取組みの方向性（たたき台）
日常生活の利便性の確保	① 公共交通の利便性と外出手段の確保 ② 生活サービスを受けやすい環境整備 ③ 魅力ある遊び場の確保 ④ 既存ストック等の活用による交流創出
魅力ある暮らし方・過ごし方の提供	① 若者・子育て世代に魅力ある住宅の確保 ② だれもが安心して住まいを確保できる環境整備 ③ 多様な働き方を実現する環境整備
豊かな自然など地区の魅力の活用	① 地区の魅力を味わえる環境整備 ② 地区の魅力を活用した取組支援

C 斜面市街地

理念（案）：眺望の良さや静かな環境などの魅力を感じ、斜面地ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

方針（案）	取組みの方向性（たたき台）
日常生活の利便性の確保	① 移動負担の軽減 ② 生活サービスを受けやすい環境整備
安全で暮らしやすい場所での斜面地住まいの推進	① 安全で暮らしやすい場所への居住誘導の推進 ② 若者・子育て世代に魅力ある住宅の確保 ③ だれもが安心して住まいを確保できる環境整備
斜面地ならではの魅力の活用	① 斜面地ならではの魅力を味わえる仕組みづくり

(5) まちづくりの理念・方針・取組みの方向性【テーマ別】

D 都心部と周辺部のつながり

理念（案）：だれもが円滑に移動でき、どこに住んでも十分な生活サービスが受けられるネットワークづくり

方針（案）	取組みの方向性（たたき台）
円滑な移動を支える道路・交通ネットワークの形成	①放射環状型幹線道路網の構築と交通渋滞の解消 ②公共交通のスムーズな移動を支える環境づくり
だれもが快適に移動できる手段の提供	①多様な関係者の共創（連携・協働）による公共交通の維持・活性化 ②公共交通のD X推進 ③多様な移動手段の交通結節機能の向上

E 広域連携

理念（案）：広域で連携しながら、観光客や働く人、住む人を呼び込むネットワークづくり

方針（案）	取組みの方向性（たたき台）
広域ネットワークの形成・活用	①円滑な広域ネットワークの形成 ②広域ネットワークの活用や県内主要観光地・商業業務集積地との連携強化
産業機能の増進	①産業集積等の動向や広域幹線道路網と連携した企業立地の受け皿の確保
居住機能の増進	①産業集積等の動向や広域幹線道路網と連携した居住機能の確保

(6) 主なご意見と事務局の考え方

- だれもが平等に生活サービスを享受できるという考え方の重要性は感じつつも、人口減少時代においてはサービス享受が困難な場所もあり、そのことは明言すべき。

⇒「コンパクト・プラス・ネットワーク※」の考え方を前提としたグランドデザインであることを明記します。

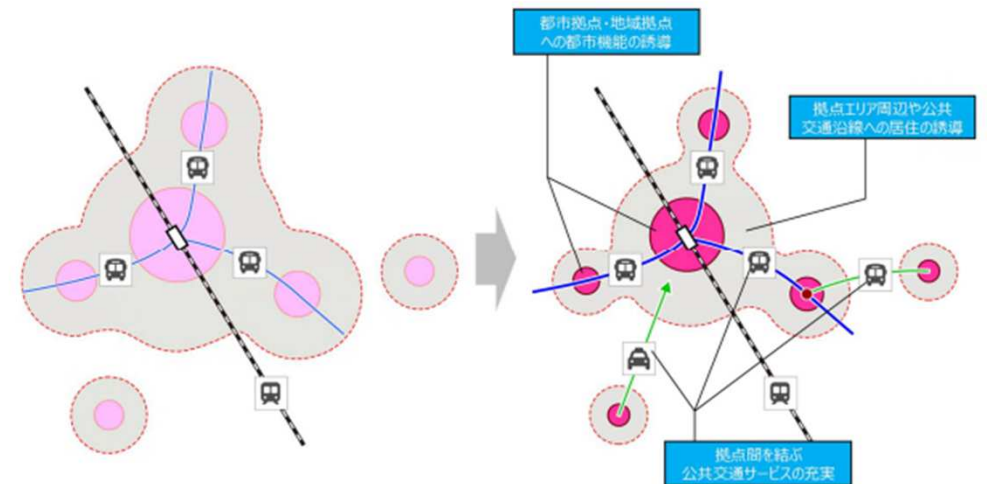
※人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。

コンパクト + ネットワーク

生活サービス機能と居住を集約・誘導し、人口を集積

まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築

■コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



出典：国土交通省「立地適正化計画の手引き」

- 多極ネットワーク型都市構造において地域拠点を持つ役割は大きいですが、現在の案では地域拠点のあり方を描ききれていない。

⇒ 地域拠点の役割を踏まえた取組みの方向性を整理します。

(6) 主なご意見と事務局の考え方

- まちづくりの方向性をいかに分かりやすく伝えられるかが大事な点であるため、素案の取りまとめ方は検討する必要がある
- 様々な世代の意見をどう反映したかが分かるよう説明してほしい。

⇒ 本グランドデザインを手にとっていただきやすい、分かりやすいものにできるよう取りまとめ方を検討します。また、素案作成にあたっては、市民意見がどのように反映されているかが分かるよう取りまとめます。

- 多様な意見を取り込む機会が必要。若い世代の意見を聴く場を設けて欲しい。
- 市外・県外の方々の意見を取り入れ、検討に活かすべきである。

⇒ 「2 策定スケジュールの見直し」でご意見を踏まえた対応についてご説明いたします。

- ポテンシャルを整理した上で、まちづくりの理念や方針を検討すべき。

⇒ 「3 長崎まちづくりのグランドデザイン2050（素案）」でご意見を踏まえた対応についてご説明いたします。

(1) 策定スケジュール

【当初】

年度	令和 6 年度			令和 7 年度								
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
策定状況		策定方針			素案					策定		
市民意見							説明会					
検討委員会		第 3 回			第 4 回			パブコメ		第 5 回		

【変更】

年度	令和 6 年度			令和 7 年度								
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
策定状況		策定方針					素案			原案		策定
市民意見				若者意見交換	オープンハウス※			意見募集説明会			パブコメ	
検討委員会		第 3 回					第 4 回 (本日)					第 5 回

※オープンハウス：計画の検討状況をパネル等を用いて説明し広く意見をいただくもの。

(2) オープンハウスの実施概要

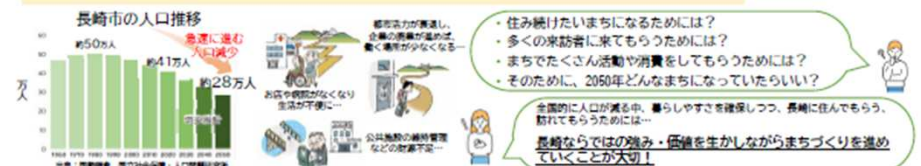
- グランドデザインの検討内容を広くご説明するとともに、市民意見をいただくため、下記のとおり市内5か所に説明ブース設置しました。
- 通りすがりの方にお声がけし、パネルで検討内容を説明し、シールを貼付けていただきながらご意見をいただきました。

【開催日程・場所】

日 時		場 所
5月8日(木)	10時 ～ 16時	長崎市役所
5月10日(土)		ベネックス恐竜博物館
5月11日(日)		道の駅そとめ
5月12日(月)		東部地区にこここセンター
5月13日(火)		長崎駅前

【説明パネルの一例】

■ 長崎まちづくりのグランドデザインの検討



■ 長崎の強み・価値を生かすまちづくり

<まちづくりの理念【全体】(案)>

多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし方や過ごし方を選択でき、だれもが安全・安心に暮らせる長崎づくり

1
国内外から多くの人々が訪れ、交流や活動ができる
そうになって欲しい
そうになって欲しくない
シール貼付け欄

2
色々な暮らし方・過ごし方を選べる
そうになって欲しい
そうになって欲しくない
シール貼付け欄

3
どこに住んでも生活サービスを享受できる
そうになって欲しい
そうになって欲しくない
シール貼付け欄

広域交通網の充実、公共交通機関や光回線が充実



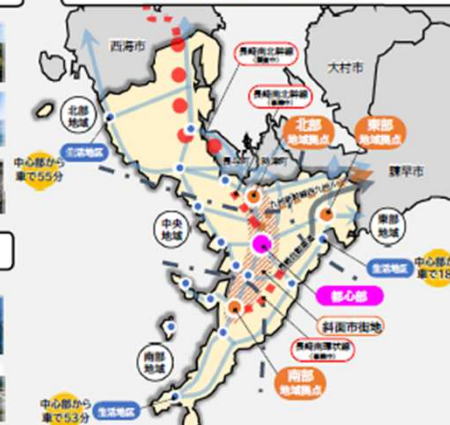
豊富な観光資源・交流機能



暮らし方・過ごし方にバリエーション



まち全体がコンパクト



(2) オープンハウスの実施概要

【実施状況】



【意見聴取人数】

場 所	市内居住者	市外居住者	合 計
長崎市役所	64 人	2 人	66 人
恐竜博物館	15 人	37 人	52 人
道の駅そとめ	57 人	28 人	85 人
東部地区 にここセンター	45 人	1 人	46 人
長崎駅前	41 人	24 人	65 人
合 計	222 人	92 人	314 人

【ご意見（抜粋）】

観光客（長崎駅前）

- バスの本数の多さにびっくりした。路面電車もとても便利。

観光客（長崎駅前）

- 長崎駅から浜町まで歩行ルートが分かりづらかった。回遊しやすい、回遊が生まれる通りと良い。

市民（東部地区にここセンター）

- 自宅近くでちょっとした買い物ができる場所があると助かる。バスの便数が少なく大変不便。行きは歩き、帰りはバスで生活している。

市民（道の駅そとめ）

- 長崎の食や自然をもっと活用すべき。島原では地元の有機野菜を活用し新たな魅力を生み出している。

（1）冊子構成

本 編

- 現状分析
- 市民意見
- 検討プロセス
- 他都市事例など

参 考 資 料

概 要 版

本 編

30ページ程度で要点整理

参 考 資 料

- 現状分析
- 市民意見
- 検討プロセス
- 他都市事例など

（2）長崎まちづくりのグランドデザイン2050（素案）

「資料④、⑤」をご参照ください。

時 期	内 容	議 題
令和6年7月26日	第1回委員会	・ グランドデザインの概要等
10月～11月	意見交換会	－
11月22日	第2回委員会	・ 目指すまちの状態と取組みの考え方、課題
令和7年2月18日	第3回委員会	・ まちづくりの理念・方針（案） ・ 取組みの方向性（たたき台）
4月～5月	意見交換会、オープンハウス	－
令和7年7月16日	第4回委員会	・ グランドデザイン（素案）
8月～9月	意見募集、市民説明会	・ グランドデザイン（素案）
10月頃		・ グランドデザイン（原案）
11月頃	パブリック・コメント	・ グランドデザイン（原案）
12月頃	第5回委員会	・ グランドデザイン（原案）
12月頃	策定・公表	－

※進捗状況により変更となる場合があります。